

第 39 回全国健康福祉祭東京大会 基本構想策定委員会

(第 2 回) 議事概要

1 日時

令和 7 (2025) 年 10 月 23 日 (木曜日) 10 時～11 時 40 分

2 場所

東京都庁第一本庁舎 25 階 105 会議室

3 出席者

川田座長、角田委員、高橋委員、吉井委員、黒羽委員、河野オブザーバー、
荒木アドバイザー、藤原アドバイザー

4 議事

事務局より、会議資料に基づき各議題の説明を行い、検討事項毎に意見交換を行った。
委員等からの主な意見は以下のとおり

(1) 検討事項① 基本方針・大会目標

(基本方針について)

- 基本方針(事務局案)内の、「高齢者の一人暮らしのさらなる増加や労働力不足の一層の深刻化等が予測されると」という表現について、非常に深刻な印象を与え、その後の前向きな話とつながらないため、無くても良いと思う。
- 一人暮らしと労働者の 2 点が強調されているが、社会的な課題はこれだけではなく、コミュニティの希薄化等もある。
- こうした問題は高齢者のみの問題ではなく、我々もみんな高齢者になるため、ターゲットは全世代になるのではないか。そのため、「いくつになっても」以降の主語を、「誰もが」と明確にした方が良い。

(大会目標について)

- 人生 100 年時代と、3 桁を掲げている国は他にはない。これまでの我が国の取組や歴史を、この機会に国際的に発信するべき。
- 日本の健康長寿の取組について、国際的な関心を持たれるためには、東京から世界に向けて発信していくことが大事
- アドバイザリーからはシニアの就業体験といった取組を提案しているが、社会とのつながり創出の側面も踏まえ、大会を契機に高齢者の就労支援も行っていければ良い。

(2) 検討事項② 大会の概要

(大会の在り方について)

- 交流大会の参加者が60歳以上であるという定義は変えられないが、それ以外はみんなで参加できるということを打ち出していくべき。発想を変えた方が良い。交流大会の競技に全世代が入っても良いと思う。
- 誰もが楽しめる大会にするため、従来の高齢者対象といったイメージを変えていかないといけない。交流大会以外でも、参加できるようなイベント等を開催する余地はある。

(大会PRについて)

- 大会の知名度を上げていくためには、イメージ戦略が非常に大事。親しみやすいマスコットも重要となってくる。
- 過去の大会知名度は非常に低く、ねんりんピックに対して住民の主体性がない。行動科学的には主体性を引き出すのが大事で、テーマを公募という取組は良い。
- テーマの募集にあたって、大会の主語は60歳以上だけではなく、5つの大会目標に立ち戻って、全ての人であることが伝わるようにした方が良い。
- なるべく多くの人に届くようなPRをよく検討した方が良い。
- 電車の中吊り広告等も有効だが、路線によっては価格が高く、掲載日も限定されるため、費用面も考慮しながら広報戦略を考えた方が良い。

(企業との連携について)

- 企業連携は重要な視点だが、ねんりんピックの知名度が低い中で、協賛企業を集めるのが課題になるのではないかと。企業に対しメリットを打ち出していくとともに、相乗効果を発揮できるような仕組みが必要
- デフリンピックは多くの企業の協賛を集めており成功している。そうしたノウハウも是非活用して欲しい。

(3) 検討事項③ 事業体系・会場等

- 総合開会式は従来の方式に拘らず、例えば式典開催後、誰もが参加できるようにして、盛り上げれば良いのではないかと。
- 過去大会では選手をバスで輸送していたが、東京は公共交通機関も発達しているので、必ずしもバス輸送に拘らなくても良いと思う。

これらの意見に対し事務局から、検討を行った上で、今後公表予定の「ねんりんピック東京大会基本構想（素案）」等に反映させていくことが確認された。

以上